

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	専門学校日本自動車大学校
設置者名	学校法人日栄学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
自動車産業専門課程	自動車整備科	夜・通信	334時間	160時間	
	自動車研究科	夜・通信	334時間	320時間	
	1級自動車整備士コース				
	マネジメントコース				
	3D-CAD 設計製造コース				
	国際エンジニアコース				
	カスタマイズ科	夜・通信	297時間	80時間	
	モータースポーツ科	夜・通信	405時間	80時間	
(備考) 上記時間数は、学則別表の1時間=45分に対し、1時間=50分に換算した値である。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ <https://www.nats.ac.jp/other/joho>

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	専門学校日本自動車大学校
設置者名	学校法人日栄学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページ <https://www.nats.ac.jp/other/joho>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現職：株式会社 相談役 前職：株式会社 役員	2025. 5. 17 ～ 2029. 5	会社経営の経験と自動車業界に関する幅広い見識から、外部理事として学校法人の組織運営体制へのチェック機能を期待している
非常勤	現職：株式会社 役員	2025. 5. 17 ～ 2029. 5	会社経営の経験と自動車業界に関する幅広い見識から、外部理事として学校法人の組織運営体制へのチェック機能を期待している
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	専門学校日本自動車大学校
設置者名	学校法人日栄学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

自動車整備科、自動車研究科の1, 2年次並びに自動車研究科の一級自動車整備士コースの3, 4年次の授業計画書については、国家資格である二級自動車整備士及び一級自動車整備士を養成する一種養成施設の認可基準に則り作成する。また上記の学科、各コースを含め、その他の学科、各コースについても当校の建学の精神、教育方針に則り各学科の学修目標への到達を図るため授業計画書を作成する。

上記の基準をベースに授業計画書は、学則に規定された「教育課程編成委員会」の意見を参考に、学校長並びに教職員らで構成される「カリキュラム編成委員会」で策定し、理事会で決定する。

年度毎の具体的な授業計画書及び各授業のスケジュールは、前年度の3月の理事会で承認を経て決定され公表される。

授業計画書の公表方法	授業計画書(シラバス): ホームページにて公開 https://www.nats.ac.jp/other/joho (授業スケジュール(詳細)は年度当初に学生へ書面にて配布)
------------	--

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

学修成果及び教育の評価は、平常評価、平常試験、学期末試験、卒業試験並びに修了試験にて行い、その試験の方法は学科目では筆記試験を、実習科目については実技試験を原則とし、場合によっては筆記試験、口答試験、研究調査物などのレポートによってこれにかえることで行う。

これらの評価は次の四段階に分けて評価し、可以上をもって履修認定する。

優 (100点～90点)	良 (89点～70点)
可 (69点～60点)	不可 (59点以下)

尚、学期末試験、卒業試験、修了試験は、出席率が国土交通省指定学科については90%以上、その他の学科目については85%以上、実習科目は90%以上でなければ受験することができず、この出席率に満たない場合は、学則の規定に則り出席率が満たされる時間数の補習授業を受講し、欠席時間を補った上で各試験を受験するものとする。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価に於けるGPA等の客観的な指標として、授業科目毎に評価される「優」,「良」,「可」,「不可」の各評価を得点化している。 具体的には、 「優」・・・50点 「良」・・・30点 「可」・・・10点 「不可」・・・0点 とし、これらの合計点で各学生が所属する学科及びコースの中で、どの位置にあるかを把握する。 尚、学科及びコースにより評価が「合否」のみを決定する科目については、当該の得点化する科目に含まない。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	ホームページ https://www.nats.ac.jp/other/joho
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業の認定に際しては、各学科において下記の力を身につけたものを認定する。 ・自動車整備科 二級自動車整備士相当の技術力を有し、整備の現場において即戦力としての実力を有すること ・自動車研究科 一級自動車整備士コース 一級自動車整備士相当の技術力を有し、高難度な整備の現場にて即戦力としての実力を有すると共に、ユーザーへ自動車のメンテナンスや環境への配慮に対し先導的な役割を担える実力を有する。 マネージメントコース 二級自動車整備士相当の技術力を背景に、自動車の販売分野や管理部門、広報部門などで即戦力として活動できる実力と管理者としての素養を身につける。 3D-CAD設計・製造コース 二級自動車整備士相当の技術力を背景に、自動車開発エンジニアとして設計、実験など開発に携わる為の実力を有する。 国際エンジニアコース 二級自動車整備士相当の技術力を背景に、自動車整備の技術現場は勿論、販売や管理部門、広報部門などで、発展途上国や先進各国との交流を図る事が可能な国際性を持った実力を有する。 ・カスタマイズ科 二級自動車整備士相当の技術力を背景に、顧客ニーズに併せたカスタマイズ車両の製作を始め、钣金、塗装技術者としても活動できる実力を有する。 ・モータースポーツ科 二級自動車整備士相当の技術力を背景に、レースメカニック、レースエンジニアを始め、広報活動やチームマネジメントまで携われる実力を有する。 卒業認定は、各学科の授業科目の評価が全て「可」以上の成績を修めた者に対して、各学科の上記の基準に達したと判断し、学校長が認定する。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	ホームページ https://www.nats.ac.jp/other/joho

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	専門学校日本自動車大学校
設置者名	学校法人日栄学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.nats.ac.jp/other/joho 並びに閲覧
収支計算書又は損益計算書	https://www.nats.ac.jp/other/joho 並びに閲覧
財産目録	https://www.nats.ac.jp/other/joho 並びに閲覧
事業報告書	https://www.nats.ac.jp/other/joho 並びに閲覧
監事による監査報告（書）	https://www.nats.ac.jp/other/joho 並びに閲覧

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報 (自動車整備科)

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		自動車産業 専門課程	自動車整備科	○	－		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2035 単位時間／単位	751 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	1284 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			2035 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
320人		383人	202人	21人	0人	21人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) カリキュラムは国家資格である二級自動車整備士を養成する一種養成施設の認可基準に基づき、当校の建学の精神、教育方針に沿い学修目標への到達を図るため作成する。 上記の基準をベースに授業計画書は、学則に規定された「教育課程編成委員会」の意見を参考に、学校長並びに教職員らで構成される「カリキュラム編成委員会」で策定し、理事会で決定する。 年度毎の具体的な授業計画書及び各授業のスケジュールは、前年度の3月の理事会で承認を経て決定され、公表は年度当初に学生へ書面にて公表される。 ※ 本校は1H＝45分としてカリキュラムを組んでいるが、上記表中の時間数は1H＝50分に換算した時間数を記載している。
成績評価の基準・方法
(概要) ■成績評価の基準・方法 学修成果及び教育の評価は、平常評価、平常試験、学期末試験、卒業試験並びに修了試験にて行い、その試験の方法は学科目では筆記試験を、実習科目については実技試験を原則とし、場合によっては筆記試験、口答試験、研究調査物などのレポートによってこれにかえることで行う。 これらの評価は次の四段階に分けて評価し、可以上をもって履修認定する。 優 (100点～90点) 良 (89点～70点) 可 (69点～60点) 不可 (59点以下) 尚、学期末試験、卒業試験、修了試験は、出席率が国土交通省指定学科については、90%以上、その他の学科目については85%以上、実習科目は90%以上でなければ受験することができず、この出席率に満たない場合は、学則の規定に則り出席率が満たされる時間数の補習授業を受講し、欠席時間を補った上で各試験を受験するものとする。
卒業・進級の認定基準
(概要) 二級自動車整備士相当の技術力を有し、整備の現場において即戦力としての実力を有することを基準とし、学科目及び実習科目の全てが「可」以上の成績を修めた者に対して、上記の基準に達したと判断し、学校長が認定する。

学修支援等
(概要) ・精緻な学生対応のために担任制を導入し、学生の修学上及び生活上の諸問題に対し綿密に対応している。 ・効果的な知識、技術習得のための授業ごとの導入教育を実施すると共に、試験不合格者・成績不良者への補講実施並びに追試験実施により確実な習得を見極めている。 ・資格試験合格の為の特別講習の実施 ・各種セミナー開催による幅広い知識の習得 ・課外活動等を通してのコミュニケーションの充実

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
105人 (100%)	62人 (59%)	43人 (40.9%)	0人 (0%)
(主な就職、業界等) 自動車産業・自動車整備業界			
(就職指導内容) 日常学園生活での社会人としての行動や意識の啓発、講義を実施した上で採用情報を公開し、企業訪問幹旋、企業訪問指導、履歴書作成指導、面接試験指導、実技試験指導、お礼状指導等を各個人毎に実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ガス溶接技能講習修了証、アーク溶接業務特別教育修了証、危険物取扱者乙種第4類、ソーシャル検定中級、低圧電気業務特別教育修了証、損害保険募集人一般試験基礎単位、損害保険募集人一般試験自動車保険単位、中古自動車査定士（小型）、二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士			
(備考)（任意記載事項） 卒業生105名のうち進学者62名の内訳は、本校カスタマイズ科に35名、モータースポーツ科に27名が内部進学したものである。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
329人	28人（除籍者含む）	8.5%
(中途退学の主な理由) 身体的理由、経済的理由、就学意欲喪失、自己都合、		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会を開催している。留学生の在留資格の管理並びに在留資格取得のためのサポートを実施。		

①－１－２ 学科等の情報（自動車研究科 全コース共通 １，２年次）

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業		自動車産業 専門課程	自動車研究科		－	○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	2035 単位時間／単位	751 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	1284 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			2035 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		96人	7人	12人	1人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画書）
（概要） カリキュラムは国家資格である二級自動車整備士を養成する一種養成施設の認可基準に基づき、当校の建学の精神、教育方針に沿い学修目標への到達を図るため作成する。上記の基準をベースに授業計画書は、学則に規定された「教育課程編成委員会」の意見を参考に、学校長並びに教職員らで構成される「カリキュラム編成委員会」で策定し、理事会で決定する。 年度毎の具体的な授業計画書及び各授業のスケジュールは、前年度の３月の理事会で承認を経て決定され、公表は年度当初に学生へ書面にて公表される。 ※ 本校は１H＝４５分としてカリキュラムを組んでいるが、上記表中の時間数は１H＝５０分に換算した時間数を記載している。
成績評価の基準・方法
（概要） ■成績評価の基準・方法 学修成果及び教育の評価は、平常評価、平常試験、学期末試験、卒業試験並びに修了試験にて行い、その試験の方法は学科目では筆記試験を、実習科目については実技試験を原則とし、場合によっては筆記試験、口答試験、研究調査物などのレポートによってこれにかえることで行う。 これらの評価は次の四段階に分けて評価し、可以上をもって履修認定する。 優（１００点～９０点） 良（８９点～７０点） 可（６９点～６０点） 不可（５９点以下） 尚、学期末試験、卒業試験、修了試験は、出席率が国土交通省指定学科については、９０％以上、その他の学科目については８５％以上、実習科目は９０％以上でなければ受験することができない。
卒業・進級の認定基準
（概要） 二級自動車整備士相当の技術力を有し、整備の現場において即戦力としての実力を有することを基準とし、学科目及び実習科目の全てが「可」以上の成績を修めた者に対して、上記の基準に達したと判断し、学校長が認定する。

学修支援等			
(概要) ・精緻な学生対応のために担任制を導入し、学生の修学上及び生活上の諸問題に対し綿密に対応している。 ・効果的な知識、技術習得のための授業ごとの導入教育を実施すると共に、試験不合格者・成績不良者への補講実施並びに追試験実施により確実な習得を見極めている。 ・資格試験合格の為の特別講習の実施 ・各種セミナー開催による幅広い知識の習得 ・課外活動等を通してのコミュニケーションの充実			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)
(主な就職、業界等) (就職指導内容) 日常学園生活での社会人としての行動や意識の啓発、講義を実施した上で採用情報を公開し、企業訪問斡旋、企業訪問指導、履歴書作成指導、面接試験指導、実技試験指導、お礼状指導等を各個人毎に実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) ガス溶接技能講習修了証、アーク溶接業務特別教育修了証、 危険物取扱者乙種第4類、ソーシャル検定中級、低圧電気業務特別教育修了証 損害保険募集人一般試験基礎単位、損害保険募集人一般試験自動車保険単位 中古自動車査定士（小型）、二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士			
(備考)（任意記載事項） 自動車研究科においては4年課程のため、2年次修了時点では卒業、就職者は無し。 生徒数、教員数については1、2年次の生徒人数及び担当教員数を表している。			

中途退学の現状（自動車研究科1・2年次）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
96人	4人（除籍者含む）	4.2%
(中途退学の主な理由) 身体的理由、経済的理由、就学意欲喪失、自己都合		
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会を開催している。留学生の在留資格の管理並びに在留資格取得のためのサポートを実施。		

①－２－１ 学科等の情報（自動車研究科 ３，４年次 一級自動車整備士コース）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		自動車産業 専門課程	自動車研究科 一級自動車整備士コース	—	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	2286 単位時間／単位	567 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	1719 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
		2286 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生 数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
160人		45人	0人	12人	1人	13人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画書）

（概要）

カリキュラムは国家資格である一級自動車整備士を養成する一種養成施設の認可基準に基づき、当校の建学の精神、教育方針に沿い学修目標への到達を図るため作成する。上記の基準をベースに授業計画書は、学則に指定された「教育課程編成委員会」の意見を参考に、学校長並びに教職員らで構成される「カリキュラム編成委員会」で策定し、理事会で決定する。

年度毎の具体的な授業計画書及び各授業のスケジュールは、前年度の３月の理事会で承認を経て決定される。公表は年度当初に学生へ書面にて公表される。

※ 本校は１Ｈ＝４５分としてカリキュラムを組んでいるが、上記表中の時間数は
１Ｈ＝５０分に換算した時間数を記載している。

成績評価の基準・方法

■成績評価の基準・方法

学修成果及び教育の評価は、平常評価、平常試験、学期末試験、卒業試験並びに修了試験にて行い、その試験の方法は学科目では筆記試験を、実習科目については実技試験を原則とし、場合によっては、筆記試験、口答試験、研究調査物などのレポートによってこれにかえることで行う。

これらの評価は次の四段階に分けて評価し、可以上をもって履修認定する。

優（１００～９０点） 良（８９～７０点）

可（６９～６０点） 不可（５９点以下）

尚、学期末試験、卒業試験、修了試験は、出席率が各学科・実習時間の９０％以上でなければ受験することができない。

卒業・進級の認定基準

一級自動車整備士相当の技術力を有し、整備の現場において即戦力としての実力を有することを基準とし、授業科目が全て「可」以上の成績を修めた者に対して、上記の基準に達したと判断し、学校長が認定する。

学修支援等			
・精緻な学生対応のため担任制を導入し、学生の修学状及び生活上の諸問題に対し綿密に対応している。 ・効果的な知識・技術習得のため授業ごとの導入教育を実施すると共に、試験不合格者・成績不良者への補講実施並びに追試験実施により確実な習得を見極めている。 ・各種セミナー開催による幅広い知識の習得を図っている。 ・課外活動等を通してのコミュニケーションの充実を図っている。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28人 (100%)	0人 (0%)	28人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車メーカー、自動車部品製造会社、自動車販売店、自動車整備工場、損害保険会社他			
（就職指導内容） 日常学園生活での社会人としての行動や意識の啓発、講義を実施した上で採用情報を公開し、企業訪問幹旋、企業訪問指導、履歴書作成指導、面接試験指導、実技試験指導、御礼状指導等を各個人毎に実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） “二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士、二級二輪自動車整備士 ガス溶接技能講習、アーク溶接業務特別教育、 危険物取扱者（乙種第4類）、低圧電気取扱業務特別教育 損害保険募集人資格一般試験（基礎、自動車保険）、小型中古自動車査定士 第二種電気工事士、職業訓練指導員			
（備考）（任意記載事項） 生徒数、教員数については定員等をコース毎に設定していないため、研究科3，4年次の生徒人数及び担当教員数を表し、卒業生数等についてはコース毎の人数を記した。			

中途退学の現状（自動車研究科 一級自動車整備士コース 3・4年次）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
58人	2人	3.4%
（中途退学の主な理由） 身体的理由、経済的理由、就学意欲喪失、自己都合		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会の実施、留学生への在留資格の管理も行っている。		

①－２－２ 学科等の情報（自動車研究科 ３，４年次 マネージメントコース）

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		自動車産業専門課程	自動車研究科 マネジメントコース	—		○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	2 2 8 6 単位時間／単位	630 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	1656 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			2 2 8 6 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
1 6 0 人		8 人	0 人	1 2 人	1 人	1 3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画書）
（概要） カリキュラムは二級自動車整備士相当の技術力を背景に、自動車の販売分野や管理部門、広報部門などで即戦力として活動できる実力と管理者としての素養に基づき、当校の建学の精神、教育方針に沿い学修目標への到達を図るため作成する。上記の基準をベースに授業計画書は、学則に指定された「教育課程編成委員会」の意見を参考に、学校長並びに教職員らで構成される「カリキュラム編成委員会」で策定し、理事会で決定する。 年度毎の具体的な授業計画書及び各授業のスケジュールは、前年度の３月の理事会で承認を経て決定される。公表は年度当初に学生へ書面にて公表される。 ※ 本校は１Ｈ＝４５分としてカリキュラムを組んでいるが、上記表中の時間数は１Ｈ＝５０分に換算した時間数を記載している。
成績評価の基準・方法
■成績評価の基準・方法 学修成果及び教育の評価は、平常評価、平常試験、学期末試験、卒業試験並びに修了試験にて行い、その試験の方法は学科目では筆記試験を、実習科目については実技試験を原則とし、場合によっては、筆記試験、口答試験、研究調査物などのレポートによってこれにかえることで行う。 これらの評価は次の四段階に分けて評価し、可以上をもって履修認定する。 優（１００～９０点） 良（８９～７０点） 可（６９～６０点） 不可（５９点以下） 尚、学期末試験、卒業試験、修了試験は、出席率が各学科・実習時間の９０％以上でなければ受験することができない。
卒業・進級の認定基準
授業科目が全て「可」以上の成績を修めた者に対して、上記の基準に達したと判断し、学校長が認定する。

学修支援等			
・精緻な学生対応のため担任制を導入し、学生の修学状及び生活上の諸問題に対し綿密に対応している。 ・効果的な知識・技術習得のため授業ごとの導入教育を実施すると共に、試験不合格者・成績不良者への補講実施並びに追試験実施により確実な習得を見極めている。 ・各種セミナー開催による幅広い知識の習得を図っている。 ・課外活動等を通してのコミュニケーションの充実を図っている。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
5 人 (100 %)	0 人 (0 %)	5 人 (100 %)	0 人 (0 %)
（主な就職、業界等） 自動車メーカー、自動車部品製造会社、自動車販売店、自動車整備工場、損害保険会社他			
（就職指導内容） 日常学園生活での社会人としての行動や意識の啓発、講義を実施した上で採用情報を公開し、企業訪問斡旋、企業訪問指導、履歴書作成指導、面接試験指導、実技試験指導、御礼状指導等を各個人毎に実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士、二級二輪自動車整備士 ガス溶接技能講習、アーク溶接業務特別教育 危険物取扱者（乙種第4類）、低圧電気取扱業務特別教育 損害保険募集人資格一般試験（基礎、自動車保険）、小型中古自動車査定士 第二種電気工事士、職業訓練指導員、日商簿記検定三級、運行管理者（貨物） 三級販売士			
（備考）（任意記載事項） 生徒数、教員数については定員等をコース毎に設定していないため、研究科3，4年次の生徒人数及び担当教員数を表し、卒業生数等についてはコース毎の人数を記した。			

中途退学の現状（自動車研究科 マネージメント・コース 3・4年次）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10 人	0 人	0 %
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会を実施、留学生の在留資格の管理を行っている。		

①－２－３ 学科等の情報（自動車研究科 ３，４年次 ３Ｄ－ＣＡＤ設計製造コース）

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
工業		自動車産業専門課程	自動車研究科 3D-CAD 設計製造コース	—		○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	2 2 8 6 単位時間／単位	657 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	1629 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			2 2 8 6 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
1 6 0 人		7 4 人	0 人	1 2 人	1 人	1 3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画書）
（概要） カリキュラムは二級自動車整備士相当の技術力を背景とし、自動車開発エンジニアとして設計、実験など開発に携わる技術に基づき、当校の建学の精神、教育方針に沿った学修目標への到達を図るため作成する。上記の基準をベースに授業計画書は、学則に指定された「教育課程編成委員会」の意見を参考に、学校長並びに教職員らで構成される「カリキュラム編成委員会」で策定し、理事会で決定する。 年度毎の具体的な授業計画書及び各授業のスケジュールは、前年度の３月の理事会で承認を経て決定される。公表は年度当初に学生へ書面にて公表される。 ※ 本校は１Ｈ＝４５分としてカリキュラムを組んでいるが、上記表中の時間数は１Ｈ＝５０分に換算した時間数を記載している。
成績評価の基準・方法
■成績評価の基準・方法 学修成果及び教育の評価は、平常評価、平常試験、学期末試験、卒業試験並びに修了試験にて行い、その試験の方法は学科目では筆記試験を、実習科目については実技試験を原則とし、場合によっては、筆記試験、口答試験、研究調査物などのレポートによってこれにかえることで行う。 これらの評価は次の四段階に分けて評価し、可以上をもって履修認定する。 優（１００～９０点） 良（８９～７０点） 可（６９～６０点） 不可（５９点以下） 尚、学期末試験、卒業試験、修了試験は、出席率が各学科・実習時間の９０％以上でなければ受験することができない。
卒業・進級の認定基準
授業科目が全て「可」以上の成績を修めた者に対して、上記の基準に達したと判断し、学校長が認定する。

学修支援等			
・精緻な学生対応のため担任制を導入し、学生の修学状及び生活上の諸問題に対し綿密に対応している。 ・効果的な知識・技術習得のため授業ごとの導入教育を実施すると共に、試験不合格者・成績不良者への補講実施並びに追試験実施により確実な習得を見極めている。 ・各種セミナー開催による幅広い知識の習得を図っている。 ・課外活動等を通してのコミュニケーションの充実を図っている。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
30人 (100%)	0人 (0%)	30人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車メーカー、自動車部品製造会社、自動車販売店、自動車整備工場、損害保険会社他			
（就職指導内容） 日常学園生活での社会人としての行動や意識の啓発、講義を実施した上で採用情報を公開し、企業訪問幹旋、企業訪問指導、履歴書作成指導、面接試験指導、実技試験指導、御礼状指導等を各個人毎に実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） “二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士、二級二輪自動車整備士 ガス溶接技能講習、アーク溶接業務特別教育 危険物取扱者（乙種第4類）、低圧電気取扱業務特別教育 損害保険募集人資格一般試験（基礎、自動車保険）、小型中古自動車査定士 第二種電気工事士、職業訓練指導員、日商簿記検定三級			
（備考）（任意記載事項） 生徒数、教員数については定員等をコース毎に設定していないため、研究科3，4年次の生徒人数及び担当教員数を表し、卒業生数等についてはコース毎の人数を記した。			

中途退学の現状（自動車研究科 3D—CAD設計製造コース 3・4年次）		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
64人	2人	3.1%
（中途退学の主な理由） 身体的理由、経済的理由、就学意欲喪失、自己都合		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会を実施、留学生の在留資格の管理を行っている。		

①－２－４ 学科等の情報（自動車研究科 ３，４年次 国際エンジニアコース）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		自動車産業専門課程	自動車研究科 国際エンジニアコース	—	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
4 年	昼間	2 2 8 6 単位時間／単位	612 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	1674 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			2 2 8 6 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
1 6 0 人		0 人	0 人	1 2 人	1 人	1 3 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画書）
（概要） カリキュラムは二級自動車整備士相当の技術力を背景に、英国の自動車産業を中心に、国際人としての素養に基づき、当校の建学の精神、教育方針に沿い学修目標への到達を図るため作成する。上記の基準をベースに授業計画書は、学則に指定された「教育課程編成委員会」の意見を参考に、学校長並びに教職員らで構成される「カリキュラム編成委員会」で策定し、理事会で決定する。 年度毎の具体的な授業計画書及び各授業のスケジュールは、前年度の３月の理事会で承認を経て決定される。公表は年度当初に学生へ書面にて公表される。 ※ 本校は１Ｈ＝４５分としてカリキュラムを組んでいるが、上記表中の時間数は１Ｈ＝５０分に換算した時間数を記載している。
成績評価の基準・方法
■成績評価の基準・方法 学修成果及び教育の評価は、平常評価、平常試験、学期末試験、卒業試験並びに修了試験にて行い、その試験の方法は学科目では筆記試験を、実習科目については実技試験を原則とし、場合によっては、筆記試験、口答試験、研究調査物などのレポートによってこれにかえることで行う。 これらの評価は次の四段階に分けて評価し、可以上をもって履修認定する。 優（１００～９０点） 良（８９～７０点） 可（６９～６０点） 不可（５９点以下） 尚、学期末試験、卒業試験、修了試験は、出席率が各学科・実習時間の９０％以上でなければ受験することができない。
卒業・進級の認定基準
授業科目が全て「可」以上の成績を修めた者に対して、上記の基準に達したと判断し、学校長が認定する。

学修支援等			
・精緻な学生対応のため担任制を導入し、学生の修学状及び生活上の諸問題に対し綿密に対応している。 ・効果的な知識・技術習得のため授業ごとの導入教育を実施すると共に、試験不合格者・成績不良者への補講実施並びに追試験実施により確実な習得を見極めている。 ・各種セミナー開催による幅広い知識の習得を図っている。 ・課外活動等を通してのコミュニケーションの充実を図っている。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)	0 人 (0 %)
(主な就職、業界等) 自動車メーカー、自動車部品製造会社、自動車販売店、自動車整備工場、損害保険会社他			
(就職指導内容) 日常学園生活での社会人としての行動や意識の啓発、講義を実施した上で採用情報を公開し、企業訪問幹旋、企業訪問指導、履歴書作成指導、面接試験指導、実技試験指導、御礼状指導等を各個人毎に実施している。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士、二級二輪自動車整備士 ガス溶接技能講習、アーク溶接業務特別教育 危険物取扱者（乙種第4類）、低圧電気取扱業務特別教育 損害保険募集人資格一般試験（基礎、自動車保険）、小型中古自動車査定士 第二種電気工事士、職業訓練指導員、日商簿記検定三級、運行管理者（貨物） 三級販売士			
(備考) (任意記載事項) 生徒数、教員数については定員等をコース毎に設定していないため、研究科3，4年次の人数及び担当数を表し、卒業生数等についてはコース毎の人数を記した。 (現在コース選択者0名、また卒業生もコース選択者0名である)			
中途退学の現状（自動車研究科 国際エンジニア・コース 3・4年次）			
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数		中退率
0 人	0 人		0 %
(中途退学の主な理由)			
(中退防止・中退者支援のための取組) クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施することにより、保護者との連絡も密に取っている他、学力面のサポートとして放課後に勉強会の実施、留学生の在留資格の管理を行っている。			

①－３ 学科等の情報（カスタマイズ科）

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		自動車産業専門課程	カスタマイズ科	—	—		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼間	1 1 5 7 単位時間／単位	266 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	891 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位
			1 1 5 7 単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
4 0 人		3 5 人	3 人	4 人	1 人	5 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画書）
カリキュラムは二級自動車整備士相当の技術力を背景に、顧客ニーズに併せたカスタマイズ車両の製作を始め、钣金、塗装技術に基づき、当校の建学の精神、教育方針に沿い学修目標への到達を図るため作成する。 上記の基準をベースに授業計画書は、学則に規定された「教育課程編成委員会」の意見を参考に、学校長並びに教職員らで構成される「カリキュラム編成委員会」で策定し、理事会で決定する。 年度毎の具体的な授業計画書及び各授業のスケジュールは、前年度の３月の理事会で承認を経て決定され、公表は年度当初に学生へ書面にて公表される。 ※ 本校は１H＝４５分としてカリキュラムを組んでいるが、上記表中の時間数は１H＝５０分に換算した時間数を記載している。
成績評価の基準・方法
■成績評価の基準・方法 学修成果及び教育の評価は、平常評価、平常試験、学期末試験、卒業試験並びに修了試験にて行い、その試験の方法は学科目では筆記試験を、実習科目については実技試験を原則とし、場合によっては、筆記試験、口答試験、研究調査物などのレポートによってこれにかえることで行う。 これらの評価は次の四段階に分けて評価し、可以上をもって履修認定する。 優（１００～９０点） 良（８９～７０点） 可（６９～６０点） 不可（５９点以下） 尚、学期末試験、卒業試験、修了試験は、出席率が学科目については８５％以上、実習科目は９０％以上でなければ受験することができない。
卒業・進級の認定基準
自動車産業の現場において即戦力としての実力を有することを基準とし、学科目及び実習科目の全てが「可」以上の成績を修めた者に対して、上記の基準に達したと判断し、学校長が認定する。

学修支援等			
・精緻な学生対応のため担任制を導入し、学生の修学上及び生活上の諸問題に対し綿密に対応している。 ・効果的な知識・技術習得のため授業ごとの導入教育を実施すると共に、試験不合格者・成績不良者への補講実施並びに追試験実施により確実な習得を見極めている。 ・各種セミナー開催による幅広い知識の習得を図っている。 ・課外活動等を通してのコミュニケーションの充実を図っている。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
33人 (100%)	0人 (0%)	33人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車整備業界・カスタマイズ業界・钣金塗装業界・自動車部品製造業界			
（就職指導内容） 日常学園生活での社会人としての行動や意識の啓発、講義を実施した上で採用情報を公開し、企業訪問幹旋、企業訪問指導、履歴書作成指導、面接試験指導、実技試験指導、御礼状指導等を各個人毎に実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 二級二輪自動車整備士、職業訓練指導員、LSFA応急救護			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
36人	3人（除籍者含む）	8・3%
（中途退学の主な理由） 目的意識の欠如、経済的理由、体調不良など		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施することにより、保護者との連絡も密に取っている他、留学生の在留資格の管理を行っている。		

① - 4 学科等の情報 (モータースポーツ科)

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
工業		自動車産業専門課程	モータースポーツ科		—		—	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼間	1 1 8 8 単位時間／単位	333 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	855 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	0 単位時間 ／単位	
			1 1 8 8 単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
4 0 人		2 8 人	3 人	6 人	2 人		8 人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画書)
カリキュラムは二級自動車整備士相当の技術力を背景に、レースメカニック、レースエンジニアを始め、広報活動やチームマネジメントまで携われる技術に基づき、当校の建学の精神、教育方針に沿い学修目標への到達を図るため作成する。 上記の基準をベースに授業計画書は、学則に規定された「教育課程編成委員会」の意見を参考に、学校長並びに教職員らで構成される「カリキュラム編成委員会」で策定し、理事会で決定する。 年度毎の具体的な授業計画書及び各授業のスケジュールは、前年度の3月の理事会で承認を経て決定され、公表は年度当初に学生へ書面にて公表される。 ※ 本校は1H＝45分としてカリキュラムを組んでいるが、上記表中の時間数は1H＝50分に換算した時間数を記載している。
成績評価の基準・方法
■成績評価の基準・方法 学修成果及び教育の評価は、平常評価、平常試験、学期末試験、卒業試験並びに修了試験にて行い、その試験の方法は学科目では筆記試験を、実習科目については実技試験を原則とし、場合によっては、筆記試験、口答試験、研究調査物などのレポートによってこれにかえることで行う。 これらの評価は次の四段階に分けて評価し、可以上をもって履修認定する。 優 (100～90点) 良 (89～70点) 可 (69～60点) 不可 (59点以下) 尚、学期末試験、卒業試験、修了試験は、出席率が各学科・実習時間の90%以上でなければ受験することができない。
卒業・進級の認定基準
自動車産業の現場において即戦力としての実力を有することを基準とし、学科目及び実習科目の全てが「可」以上の成績を修めた者に対して、上記の基準に達したと判断し、学校長が認定する。

学修支援等			
・精緻な学生対応のため担任制を導入し、学生の修学上及び生活上の諸問題に対し綿密に対応している。 ・効果的な知識・技術習得のため授業ごとの導入教育を実施すると共に、試験不合格者・成績不良者への補講実施並びに追試験実施により確実な習得を見極めている。 ・各種セミナー開催による幅広い知識の習得を図っている。 ・課外活動等を通してのコミュニケーションの充実を図っている。			
卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
19人 (100%)	0人 (0%)	19人 (100%)	0人 (0%)
（主な就職、業界等） 自動車整備業界・レース業界・自動車部品製造業界			
（就職指導内容） 日常学園生活での社会人としての行動や意識の啓発、講義を実施した上で採用情報を公開し、企業訪問幹旋、企業訪問指導、履歴書作成指導、面接試験指導、実技試験指導、御礼状指導等を各個人毎に実施している。			
（主な学修成果（資格・検定等）） J A F 公認ドライバー国内A級ライセンス、J A F 公認国内A2公認審判員ライセンス 二級二輪自動車整備士、職業訓練指導員、L S F A 応急救護			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
19人	0人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） クラス担任制及びキャンパス・アドバイザーを設置し学生の各種相談に対応している。また、必要に応じ家庭への連絡及び家庭訪問を実施することにより、保護者との連絡も密に取っている他、留学生の在留資格の管理を行っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
自動車整備科	300,000 円	490,000 円	490,000 円	その他＝実験実習費＋教育施設費
自動車研究科	300,000 円	490,000 円	490,000 円	その他＝実験実習費＋教育施設費
カスタマイズ科	300,000 円	670,000 円	680,000 円	その他＝実験実習費＋教育施設費
モータースポーツ科	300,000 円	600,000 円	580,000 円	その他＝実験実習費＋教育施設費
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ https://www.nats.ac.jp/other/joho		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 企業や卒業生、地域住民等が参画した学校関係者評価委員会を設置し、学校評価ガイドラインに沿って行う自己点検評価をベースに、教育活動を始め学校運営に関する取り組みや改善方法を評価検証し、教育活動全般の質的向上を図る事を基本方針とする。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
自動車関連企業	2024. 4. 1～2026. 3. 31	卒業生就職先企業
地域住民	2024. 4. 1～2026. 3. 31	地域住民
高等学校	2024. 4. 1～2026. 3. 31	教育関係者 (在校生出身高等学校)
卒業生保護者	2024. 4. 1～2026. 3. 31	卒業生保護者
卒業生	2024. 4. 1～2026. 3. 31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ https://www.nats.ac.jp/other/joho		
第三者による学校評価 (任意記載事項) 学校関係者評価委員の任期は2年間で、2年ごとに委員を選任(再任可)し、継続して学校関係者評価を実施する。		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ https://www.nats.ac.jp/other/joho
